速　報

平成１１年９月２日

東京都病害虫防除所

病害虫防除所情報

露地トマトに多発した茎・果実のえそ症状の原因について
～ウイルス検定結果～

本年、露地トマトに多発した茎・果実のえそ症状株についてウイルス検定を実施した結果、82%の株がＣＭＶに、21%の株がＴＳＷＶ感染していることが判明しました。両ウイルスともきわめて多くの植物に感染し、被害を生じますので、今後、他作物での発生に注意して下さい。

1.発生状況および症状：本症状は都下全域の露地栽培トマトで6月初旬頃より確認された。その症状は全地区でほぼ共通的であり、茎に連続的な黒褐色のえそ条斑を、葉では黒色、不整形の汚らしいえそを全面に生じ、黄化する。症状の発現は、成長点付近から中位にかけての茎葉で著しい。果実では主に1段目から2段目果房での発病が激しく、褐色で大型不整形のえそを生じ、全体が奇形となる。重症株は上位部から萎凋し、その後株全体が枯死する（写真参照）。

なお、本症状は、茎のえそ条斑や果実のえそ斑が「疫病」と類似しており、外見から病原を特定することは難しい。

2.ウイルス検定結果：本症状を呈する株から採集した28検体（茎葉20検体、果実8検体）について、トマト黄化えそウイルス（ＴＳＷＶ）、キュウリモザイクウイルス（ＣＭＶ）、　カブモザイクウイルス（ＴｕＭＶ）、タバコモザイクウイルストマト系（ＴＭＶ－Ｌ）、　ソラマメウイルトウイルス（ＢＢＷＶ）、インゲンマメ黄斑モザイクウイルス（ＢｅＹ　ＭＶ）、クローバ葉脈黄化ウイルス（ＣＹＶＶ）を対象として、ＥＬＩＳＡ法により検　定を行った。その結果、**20検体がＣＭＶに、3検体がＴＳＷＶに単独感染しており、また、　3検体が両ウイルスに重複感染していることが明らかとなった（表参照）。しかし、ＴＳ　ＷＶに感染した株の葉や果実では特徴的なえそ輪紋を生じる場合もあったが、ウイルス　の種類の違い、または単独および重複感染の違いによる症状の差異は明瞭でなかった。**

なお、ＴｕＭＶ、ＴＭＶ－Ｌ、ＢＢＷＶ、ＢｅＹＭＶおよびＣＹＶＶについては、すべての検体で陰性であった。

以上から、本年露地トマトに多発生した茎・果実のえそ症状は、そのほとんどがＣＭＶによる「モザイク病」の一症状であり、一部がＴＳＷＶによる「黄化えそ病」であることが判明しました。両ウイルスとも宿主範囲がきわめて広く、広範な作物に被害を生じることから、今後、他作物での被害の発生が懸念されます。防除対策としては、ＣＭＶはアブラムシ、ＴＳＷＶはアザミウマ類により伝搬されますので、これら媒介虫の防除を徹底して下さい。また、汁液により容易に感染しますので、管理作業中の接触伝染などにも注意

が必要です。